婦中町埋蔵文化財調査報告　第７冊

富　山　県　婦　中　町

富崎地区埋蔵文化財予備調査概要II

富崎野畑遺跡
富崎南野遺跡

１９８８年３月

婦中町教育委員会
富山県農地開発公社

序

私たちの祖先が築き上げてきた文化を大切に保護し未来へと継承していくことは、現代に生きる私たちに課せられた責務といえます。すばらしい彫刻や建造物だけが文化財ではありません。長い間、土の中に埋もれていた遺構や遺物も祖先の生活や文化を知ることのできる大切な文化財です。小さなかけらの一つや柱の穴の一つが、私たちに古代の様子を語りかけてくれます。

近年、全国で発掘調査による貴重な発見が相次ぎ大きな話題となっています。そしてこうした成果が一つ一つ古代の謎を解き明かしてゆくのは、たいへん興味深くすばらしいことであります。

婦中町においてもここ数年間発掘調査が相次ぎ、貴重な成果を上げております。本書で取り上げたのは富崎地区の2遺跡の調査概要ですが、この成果が地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いであります。

最後に、発掘調査に際しご指導いただいた富山県埋蔵文化財センターをはじめ、快く調査にご協力いただいた地元の富崎地区の皆さんに深く感謝の意を表します。

1988年3月

婦中町教育委員会

例　言

1．本書は公社営肉用牛改良増殖センター建設事業に係る富崎野畑(とみさきのばた)遺跡と富崎南野(とみさきみなみの)遺跡の予備調査概要である。

2．調査は、富山県農地開発公社の委託を受けて婦中町教育委員会が実施した。調査にあたっては、富山県埋文化財センターの指導と協力を得た。

3．調査事務局は婦中町教育委員会に置き、社会教育係長大上正弘、社会教育主事田上浩幸が調査事務を担当し、教育次長卯木　武が総括した。

4．調査及び本書の編集・執筆は田上が担当し、図版の作成にあたっては臨時職員平野幸恵、瀬川範子の協力を得た。

目　次

序

例　言・目　次

Ⅰ　遺跡の位置と環境 …… 1

第1図　遺跡の位置 …… 1

Ⅱ　調査の経緯 …… 2

表1　　周辺遺跡一覧 …… 2

第2図　周辺の遺跡 …… 3

Ⅲ　調査の概要 …… 4

1．富崎野畑遺跡 …… 4

第3図　発掘区 …… 4

2．富崎南野遺跡 …… 5

第4図　発掘区 …… 5

引用・参考文献 …… 6

写真図版 …… 7

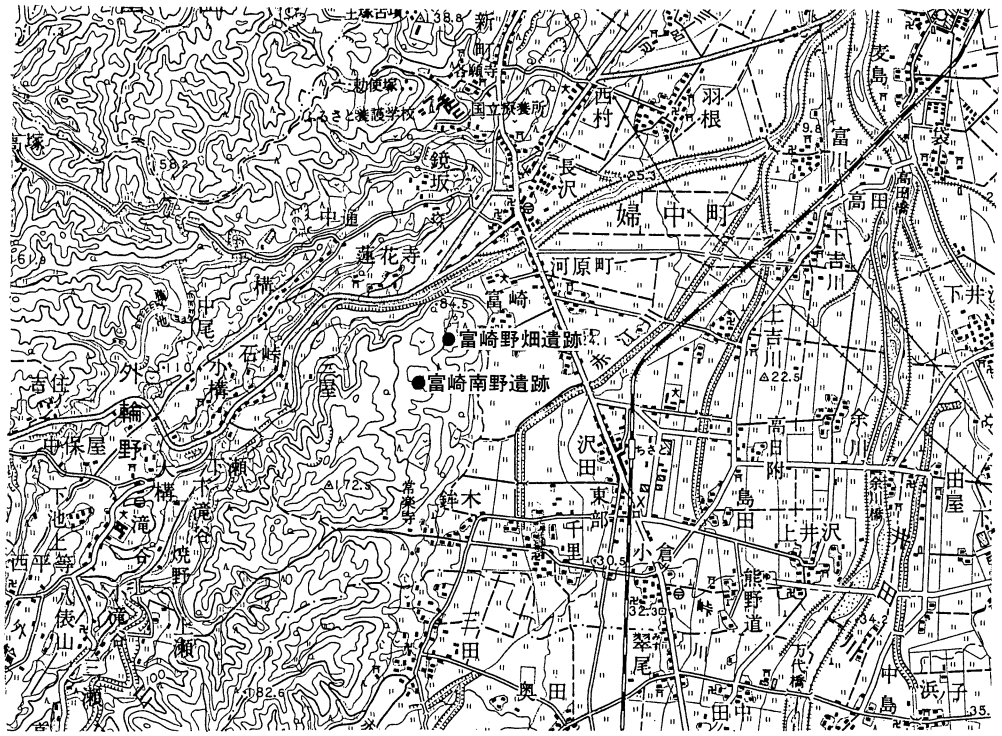
Ⅰ　遺跡の位置と環境

今回調査を実施した富崎野畑遺跡と富崎南野遺跡は、ともに富山県婦負郡婦中町富崎地内に所在する。

婦中町は、富山県のほぼ中央部に位置する町で、町域は丘陵地と平坦地の２つに大別される。平坦地は、町の東端に沿って北流する神通川とその支流である井田川によって形成された扇状地で町東部を占める。一方丘陵地は、富山平野を東西に２分する呉羽丘陵から牛岳へと連なる丘陵で町西部を占める。

両遺跡は、婦中町富崎地内の通称富崎山と呼ばれている丘陵の東斜面のゆるやかな傾斜をもつ台地上に立地する。両遺跡の眼下には富山平野が広がりそれを隔ててはるか東方には立山連峰の山々がそびえたつ。

付近には、富崎城跡を始めとしほかにも縄文時代から中世にいたるまでの多くの遺跡が存在する。なかでも富崎城跡、下瀬城跡や富崎山の西側に沿って流れる山田川を挟んだ向い側の丘陵には長沢城跡とほかにも多くの城館跡の存在が知られており、当時は富山平野から砺波平野へとぬけでる交通上・戦略上の要地であったと考えられる。



第１図　遺跡の位置（１／50,000）

II　調査の経緯

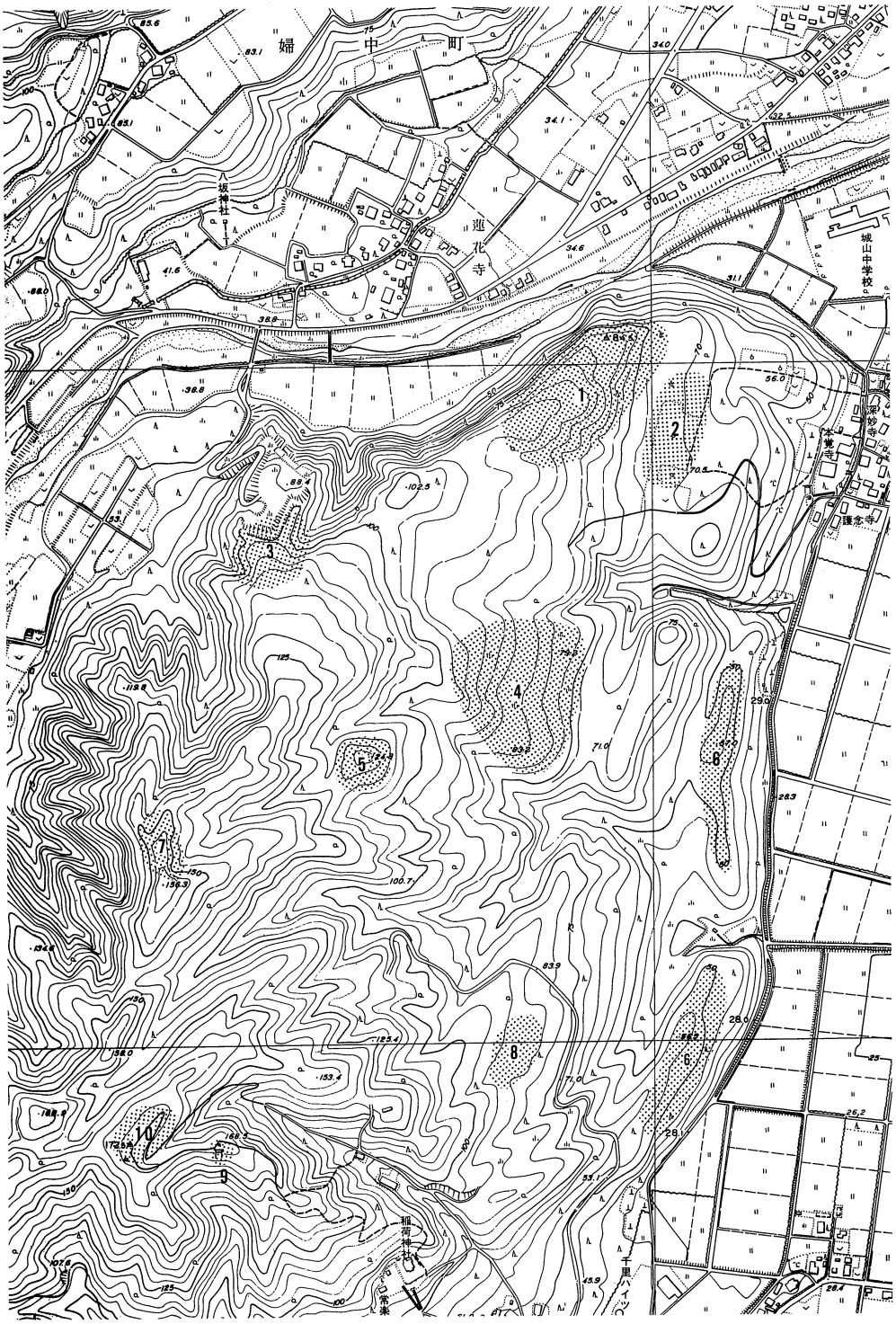
昭和58年度、婦中町富崎・千里地内の丘陵が草地開発基本事業の候補地の１つに上げられた。事業候補地内には、富崎城跡・ゴダイ塚などの周知の遺跡を含めほかにも多くの遺跡の存在が予想されたので、昭和59年４月に富山県埋蔵文化財センターと婦中町教育委員会で事業候補地内の分布調査を実施した。分布調査の結果、周知の遺跡を含めほかにも新たに数箇所の遺跡が確認された。

昭和59年、富崎・千里地区が事業地に決定し、公社営肉用牛改良増殖センターが建設されることになったので、事業主体である県畜産課・富山県農地開発公社と富山県埋蔵文化財センター・婦中町教育委員会との間で埋蔵文化財の取り扱いについて事前協議を行った。協議の結果、事業地内の遺跡はできるかぎり現状保存できるように設計することとし、やむを得ず破壊の恐れのある箇所については事業実施前にとりあえず遺跡の範囲・性格等を確認する試掘調査を実施することにした。

昭和60年度には、先に用地買収の終った千里地区の２遺跡の調査を実施し、今回は残りの富崎地区の２遺跡の試掘調査を実施した。

No.	遺跡名	種別	現状	採集遺物	備考
1	富崎城跡	城跡	山林		井戸跡・空堀あり
2	富崎野畑遺跡	散布地	畑地	縄文土器・石器	
3	下瀬離山遺跡	城跡・集落跡	山林	古式土師器	土取り断面に住居跡の痕跡、空堀あり
4	富崎南野遺跡	散布地	畑地	縄文土器・須恵器	
5	富崎赤坂遺跡	城跡	山林		テラスあり
6	富崎千里古墳群	古墳	山林		
7	下瀬向山遺跡	城跡	山林		テラスあり
8	千里片坂遺跡	城跡	山林		テラスあり
9	ゴダイ塚	塚	神社		珠洲出土の伝えあり
10	森田城跡	城跡	山林		空堀あり

表１　周辺の遺跡一覧



第2図　周辺の遺跡　1.富崎城跡　2.富崎野畑遺跡　3.下瀬離山遺跡　4.富崎南野遺跡
5.富崎赤坂遺跡　6.富崎千里古墳群　7.下瀬向山遺跡　8.千里片坂遺跡
9.ゴダイ塚　10.森田山城跡

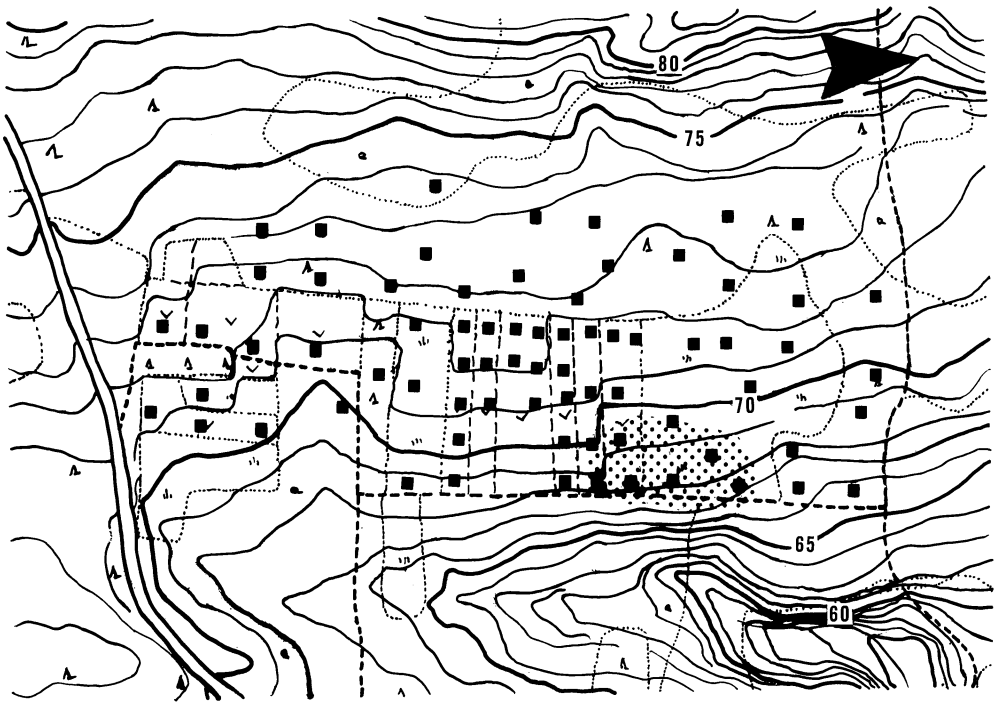
III　調査の概要

1　富崎野畑遺跡

本遺跡は南北に延びる丘陵の東側のゆるやかな傾斜をもつ斜面に立地し、標高は約65～75ｍを測る。この斜面地は小さな谷が数ケ所東から入り込み樹枝状に開析されている。遺跡は、この開析されて舌状に延びた台地上に１ケ所確認された。この遺跡の確認された台地は、地表から地山層までが10～30cmと比較的浅く、耕作土の直下にすぐ地山層が確認できた。標高の高い所ほど浅くなっているので、畑地を作った時に傾斜をよりゆるやかにするため高い所を削りとったものと考えられる。

遺構は、径約60cmの穴が１ケ所検出された。遺構に伴う遺物の出土はなかったが、付近より縄文土器が数点採集されたことから、時期は縄文時代と考えられる。

遺物は縄文土器が数点出土した。いずれも磨滅がはげしく、しかも小片であるため詳細な時期はつかめない。縄文土器が出土するのは、標高約66～70ｍあたりまでで、ほかでは表面採集もできないことから、遺跡の広がりはこの範囲内と考えられる。ほかには、伊万里系のものが数点出土している。時期は近世以降のもので、本遺跡のすぐ西側にある富崎城跡に関連する遺物ではない。



第３図　富崎野畑遺跡発掘区（１／2,000）　　■発掘区　㊞遺跡範囲

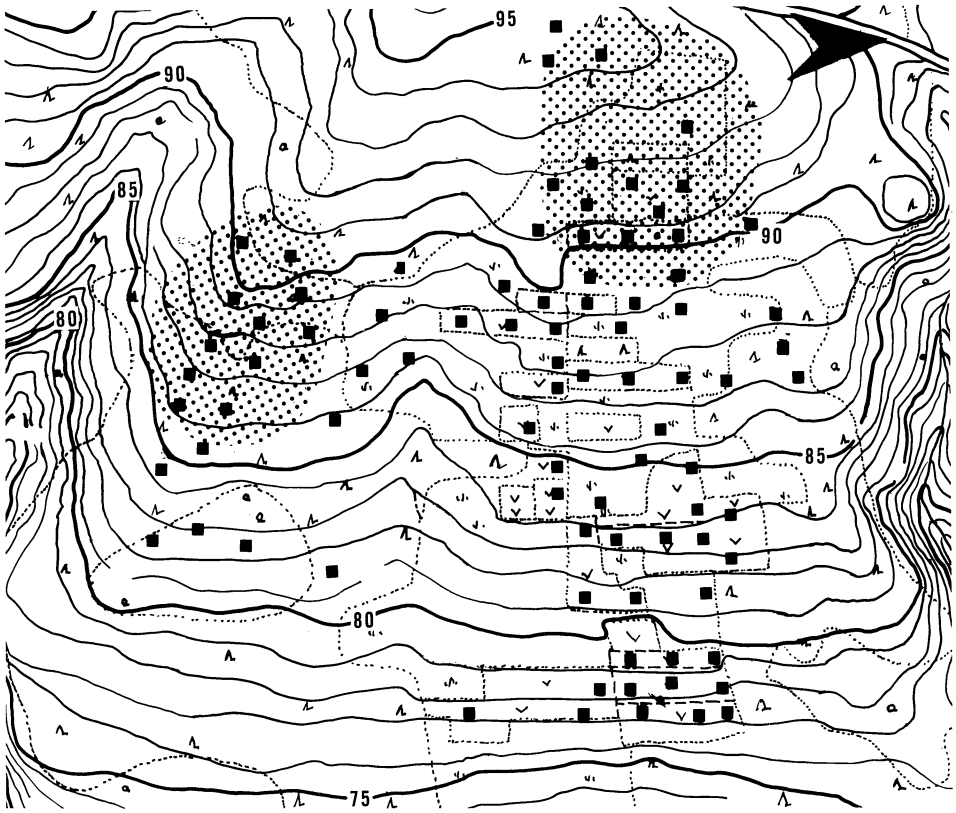
2　富崎南野遺跡

本遺跡は、富崎野畑遺跡の南方約400ｍ、大きな谷を挟んだ向い側のゆるやかな傾斜地に立地する。

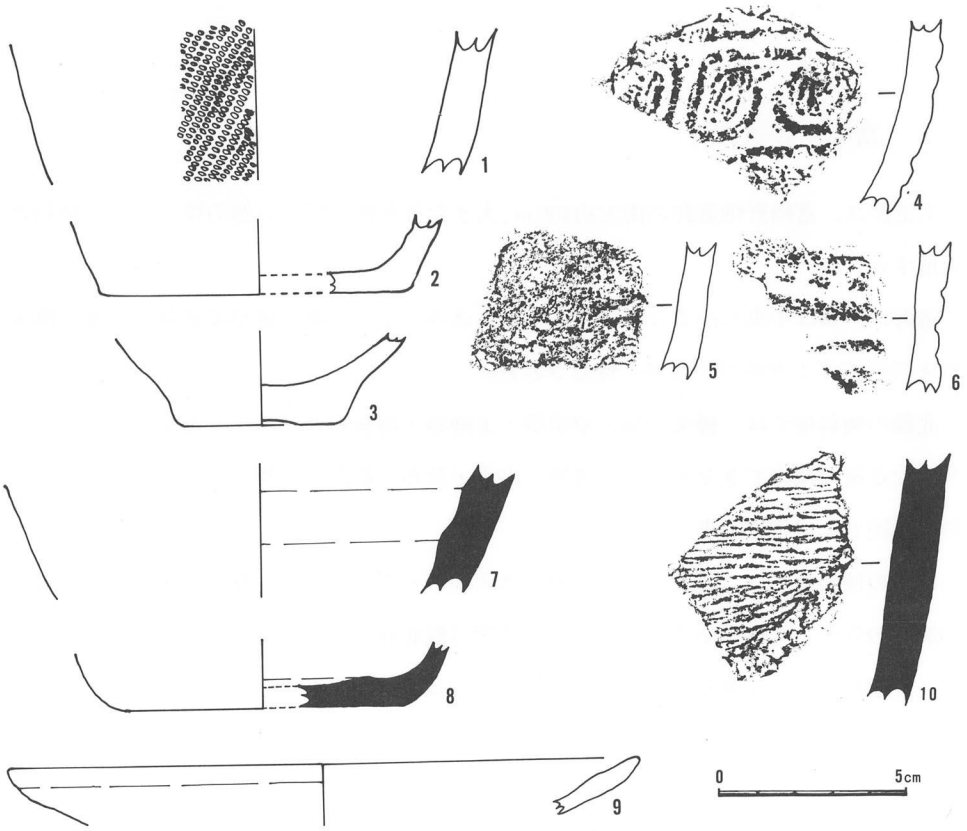
遺跡は、ほぼ中央に小さな谷が東から入り込み、２つの東へ延びる舌状の斜面で構成されその両方で１ケ所づつ遺跡が確認された。

北側の傾斜地では、縄文土器・須恵器・土師器・磨製石斧が出土したが、それらに伴う明確な遺構は検出できなかった。遺物の出土・散布の範囲は、標高89～95ｍにかぎられ遺跡の範囲もこの程度と考えられる。

南側の傾斜地では、縄文土器・珠洲の出土があった。それらに伴う明確な遺構はないが約20cmの穴が１ケ所検出された。付近の遺物の散布状況から時期は、前者のものかもしれない。遺物の出土・散布範囲は、標高約85～92ｍにかぎられ遺跡の範囲もこの程度と考えられる。



第４図　富崎南野遺跡発掘区（１／2,000）　■発掘区　◎遺跡範囲



第5図　遺物実測図（1／2）　1～6縄文土器　7･8 須恵器　9.土師器　10.珠洲
（5のみ富崎野畑遺跡）

Ⅳ　ま と め

今回調査を実施した2遺跡は、ともに遺跡が確認でき範囲もかなり絞り込むことができた。

富崎野畑遺跡は、縄文時代後期と思われる土器が出土していることから縄文時代後期の遺跡であろう。検出された遺構や遺物の出土が少ないことから小規模な遺跡と考えられる。

富崎南野遺跡は、縄文時代中期～後期の土器・須恵器・土師器・珠洲の出土から縄文時代中期～後期・奈良～平安時代・中世の3時期の複合遺跡といえる。それぞれに帰属する明確な遺構はないが、穴は縄文時代のものかもしれない。珠洲は1点のみ出土でそれ以外に中世に属する遺物はないが、付近には富崎城跡を始めとする中世城館跡が多く、それらに関連すると考えられる。縄文土器は比較的多く出土しているが、それ以外の時期は出土数がわずかで、それにともなう遺構も確認できなかったので、奈良～平安時代及び中世の時期の遺跡は小規模なものであったと考えられる。

引用・参考文献　サ　佐伯哲也　1985　「山田川流域における城館の変遷」『かんとりいNo.８』

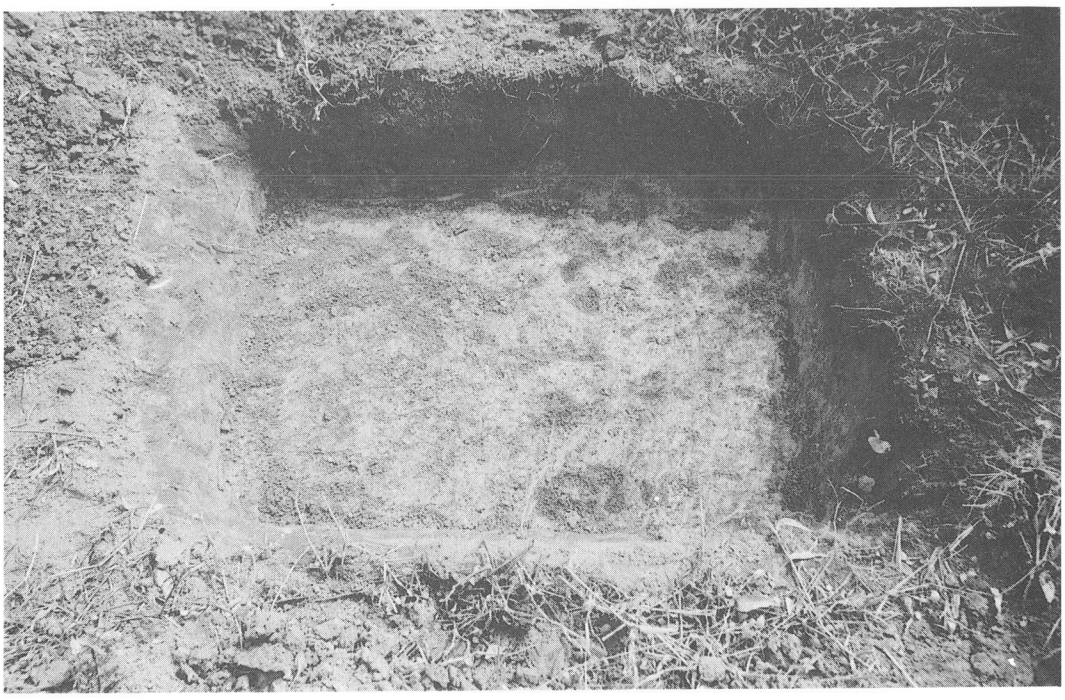
フ　婦中町教育委員会　1979　『婦中町外輪野地区埋蔵文化財予備調査概要』

〃　1984　『蓮花寺遺跡の調査』

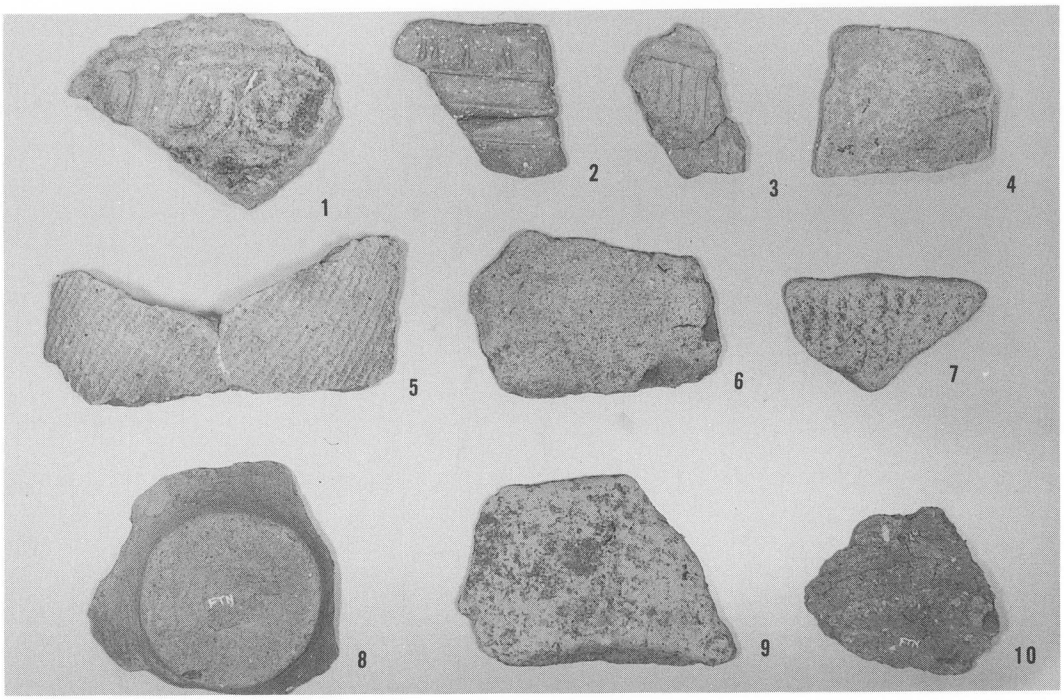
〃　1986　『婦中町富崎・千里地区埋蔵文化財予備調査概要』

図版 1

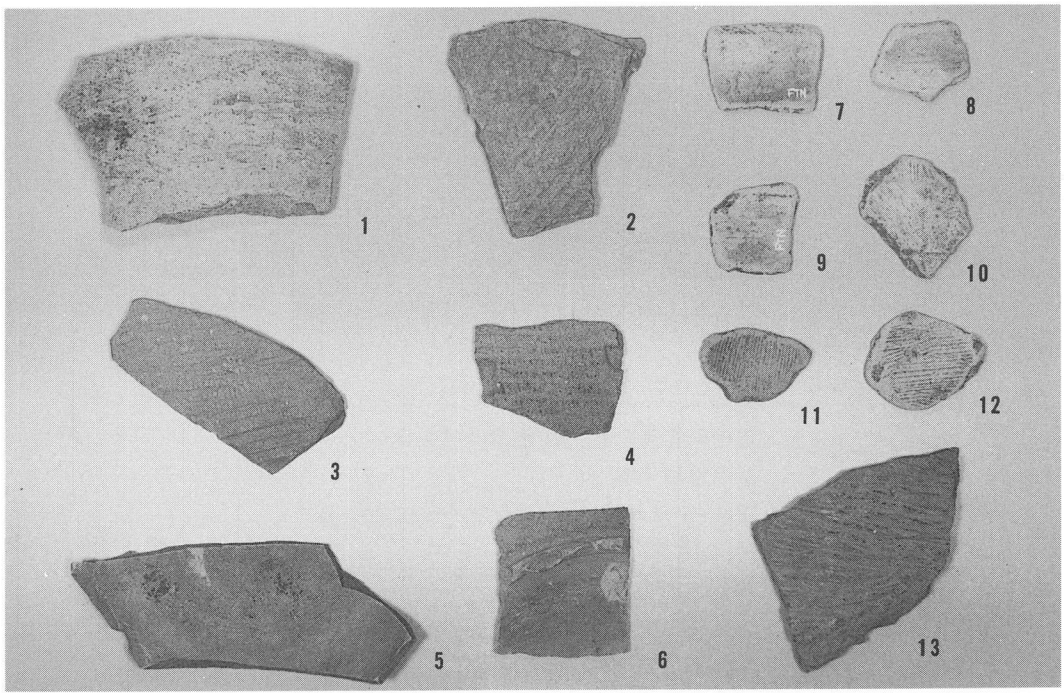
富崎野畑遺跡　穴



富崎南野遺跡　トレンチ



縄文土器（4・7 富崎野畑遺跡　1～3・5・6・8～10 富崎南野遺跡）



1～6 須恵器　7～12 土師器　13 珠洲

婦中町埋蔵文化財調査報告第７冊
富山県婦中町
富崎・千里地区　埋蔵文化財予備調査概要Ⅱ

発行日　1988年３月31日
編集者　婦中町教育委員会
発行者　婦中町教育委員会
富山県婦負郡婦中町速星754
ＴＥＬ（0764）65－2111
印刷者　日成印刷工業所